

Report

# 自然ふれあい講座 (セミのぬけがらを探せ！2023) 実施報告

この講座は毎年同じ時期に同じ場所でセミのぬけがらを集め、それらの種類や数を調べ、気候変動など環境の変化との関係について親子で考えるきっかけになればと、2012年から県内6会場で開催しています(図1)。今年は、8月1日(火)～6日(日)に行い、115人(うち、子ども66人)の方に参加していただきました(写真1)。参加者のアンケートをみると、講座に満足(95.3%)、おおむね満足(3.1%)であり、「2回目の参加で、(子どもたちに)今年の参加を伝えると大変喜んでいました。来年も参加したい。」「ミンミンゼミは鳴いているのに、抜け殻がないのはなぜ?」、大町と松本の2会場に参加した方からは「大町と松本で取れる種類の数が違って面白い。」など多数の意見をいただきました。ありがとうございます。

今年の報告では、各会場の環境と観察されるセミとの関連に少し触れて見たいと思います。どの会場も子どもたちに安全に楽しんでもらうために、整備された公園や博物館の敷地を利用しています。その中でも、鳩吹公園のように整備された公園以外に隣接する林でも採集するところや、アルプス公園のように草刈りされてない場所が混在するところ、2021年まで会場だった染屋の森のようにあまり草刈りされず小川沿いの日陰が多く湿潤な環境のところもあります。また、標高も異なり、最も標高の低い川中島古戦場史跡公園(約350m)から最も標高の高い鳩吹公園(約950m)まで様々です。今年のセミの抜け殻結果をみると、どの会場もアブラゼミの割合が高いのですが、アルプス公園や染屋の森のようにミンミンゼミの割合が高い会場もあります(図2)。標高の高い鳩吹公園、上田市民の森公園、市立大町山岳博物館では、山地帯に生息するエゾゼミが一定の割合で採集されます。毎年、鳩吹公園ではヒグラシの抜け殻が多く採集され、今年も142個(28.9%)が採集されました。多い年には8割を超えることもあります。実は、公園内にある特定のヒマラヤスギに毎年多くのヒグラシの抜け殻がつくためです(写真2)。そのため、担当が変わる時にはその木のことを引き継ぎます。その鳩吹公園ですが、年々アブラゼミの抜け殻数が増える傾向にあります。飯綱高原にある研究所の敷地(標高約1000m)でも、以前にはアブラゼミの鳴き声は聞こえなかったのですが、最近は威勢よく鳴いています。温暖化により、低地のセミ類が標高移動で上がってきている可能性もあります。皆さんもそんな目でセミたちの動向を見ってみるのはどうでしょうか。

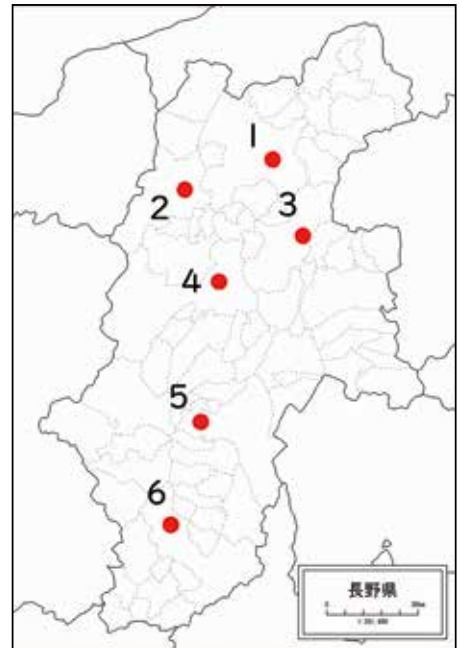


図1 自然ふれあい講座の会場位置

- 1: 長野市 川中島古戦場史跡公園(約350m)、2: 大町市 市立大町山岳博物館(約780m)、3: 上田市 市民の森公園(約910m)(2022年から)(2021年までは染屋の森(約500m))、4: 松本市 アルプス公園(約760m)、5: 伊那市 鳩吹公園(約950m)、6: 飯田市 かざこし子どもの森公園(約610m)

(堀田 昌伸/自然環境部)



写真1 抜け殻は木の上ばかりじゃない



写真2 ヒマラヤスギに鈴なりにぶら下がっているヒグラシの抜け殻(2021年鳩吹公園)。

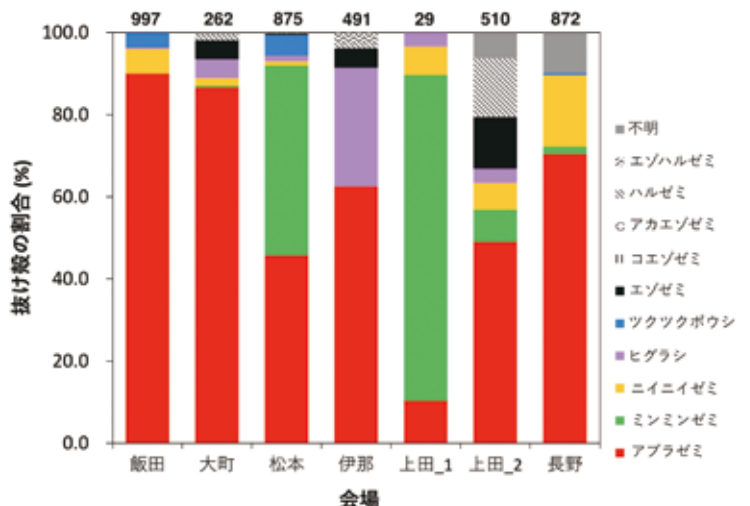


図2 各会場におけるセミの抜け殻の総数(上の数字)と各種の割合。上田\_1は染屋の森、上田\_2は市民の森公園を指す。